

これはアストラゼネカ英国本社が2008年7月31日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語標記のままとします。

AstraZeneca PLC 2008年第2四半期・上半期業績

- **主な優先課題において持続的な進捗を果たしつつ堅調な業績を達成しました**
 - 上半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで3%増。中核1株当たり利益（EPS）はCERベースで3%増の2.53ドルでした。
 - 第2四半期の売上はCERベースで2%増。中核EPSは、正味支払利息増により、CERベースで4%減の1.25ドルでした。
 - 第2四半期の新興市場における売上はCERベースで20%増加し、四半期売上において10億ドルを初めて突破しました。
 - 良好な事業・財務業績および年初からの為替差益を反映し、通年の中核EPSの目標を0.15ドル上方修正しました。中核EPSの修正目標は4.60ドル～4.90ドルです。
- **パイプラインの強化ならびに均整化において継続的な進捗を果たしました**
 - 2つの新たなプロジェクトが第III相に移行したため、第III相および申請中の後期開発パイプラインは12のプロジェクトになりました。
 - 2008年の2つめの重要な承認申請が完了しました。ONGLYZA™（saxagliptin）の2型糖尿病治療薬としての承認申請が米国とEUで提出されました。
- **米国における即決裁判の判決はセロクエルの有効な知的財産を支持しました。**
- **取締役会は最初の中間配当0.55ドルを勧告しました。**

ファイナンシャルサマリー

グループ	第2四半期	第2四半期	前年	CER	上半期	上半期	前年	CER
	2008	2007	同期比	%	2008	2007	同期比	%
	100万ドル	100万ドル	%		100万ドル	100万ドル	%	
売上高	7,956	7,273	+9	+2	15,633	14,239	+10	+3
報告ベース								
営業利益	2,473	1,973	+25	+12	4,730	4,143	+14	+3
税引き前利益	2,279	1,991	+14	+1	4,422	4,258	+4	-7
1株当たり利益	\$1.11	\$0.95	+17	+4	\$2.14**	\$1.97	+9	-3
中核***								
営業利益	2,737	2,409	+14	+3	5,502	4,683	+17	+7
税引き前利益	2,543	2,427	+5	-6	5,194	4,798	+8	-2
1株当たり利益	\$1.25	\$1.17	+7	-4	\$2.53	\$2.24	+13	+3

* 2008年下半期のガイダンスは為替に関して当初の予想（2007年第4四半期の平均レート）に基づいています。

** 報告ベースの2008年上半期1株当たり利益は2008年第1四半期に計上したEthyol™に関する無形資産の評価減（0.12ドル）を含みません。

*** 当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると信じるIFRS（国際財務報告基準）とは異なる補足的な指標として1株当たり中核利益（Core EPS）も報告しています。2008年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。Core EPSおよび2007年Core EPSと報告ベースの1株当たり利益の調整については8 - 9ページをご覧ください。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「2008年上半期に当社は業績、パイプライン、特許の3つの側面で良好な進捗を遂げました。ビジネスは上方修正された通年の財務目標達成に向けて順調に推移しており、パイプラインも継続的に強化しています。さらに、Nexiumの特許訴訟の了解とセロクエルに関する即決裁判の動議の成功により短期的な最大の財務リスクを回避しました。」

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

第2四半期

第2四半期の売上高はCER（恒常為替レート）ベースで2%増、報告ベースで9%増でした。米国の売上高は、後発品の競合による Toprol-XLの売上減を受けて4%減でした。Toprol-XLを控除すると、米国の売上高は4%増でした。米国以外の売上高は7%増加し、既成市場の売上高は2%増、特に日本では二桁の伸びを達成しました。新興市場の売上高は20%増加しました。

第2四半期は引き続き中核売上総利益率が改善し、研究開発の効率化が得られたものの、販売費・一般管理費の増加とその他の収入の減少の影響を受け、当期の中核営業利益は27億3,700万ドル（前年同期比3%増）でした。報告ベースの営業利益は、事業再編・相乗効果プログラム費用の前年同期比減により、12%増の24億7,300万ドルでした。

第2四半期中核1株当たり利益は、2007年1.17ドルに対して当期は1.25ドルであり、CERベースで4%減少しました。この数字は、中核営業利益の増加ならびに発行済株式総数減少のメリットを正味支払利息の増加が上回った結果です。1株当たり利益は、報告ベースで1.11ドル（4%増）でした。

上半期

上半期の売上高はCERベースで3%増、報告ベースで10%増でした。米国では、MedImmune社の売上高の連結計上によって米国市場でのToprol-XLの売れ行き不振が相殺され、売上高は横ばいとなりました。米国以外の売上高は5%増、既成市場は2%増、西ヨーロッパ市場では変化がありませんでした。新興市場の売上高は16%も増加しました。

中核売上総利益率の改善ならびに研究開発の効率化が他の営業利益の減少および販売費・一般管理費のわずかな増加によって一部相殺されたため、上半期中核営業利益は55億200万ドル（7%増）でした。当期は事業再編・相乗効果プログラム費用の減少によるメリットがあったものの、半年間のMedImmune社の償却費ならびに2008年第1四半期のEthyolの無形資産評価減を計上したため、報告ベースの営業利益は47億3,000万ドル（前年比3%増）にとどまりました。

上半期中核1株当たり利益は2.53ドル（3%増）でした。上半期の1株当たり利益は報告ベースで2.14ドル（3%減）でした。

研究開発の最新情報

2008年7月23日、当社とプリストル・マイヤーズ スクイブ社は米国およびEUで2型糖尿病治療用の新規化合物 ONGLYZA™（saxagliptin）の承認申請を行ったことを発表しました。EUへの申請は当初の予定より15カ月早く行いました。

ONGLYZA™の申請は、本年中に予定している3件の新薬申請の2件目です。3件目は癌治療薬Zactimaですが、申請の裏付けとなる臨床試験の病勢進行症例が必要数集積されず試験期間が延びているため、現在のところ来年上半年の申請を予定しています。

2008年の年初以降、さらに2つの新たなプロジェクトが加わり、後期パイプラインが拡大しており、これで第III相および承認申請中のプロジェクトの総数は12になりました。

- 後期第II相プルーフ・オブ・コンセプト（PoC）プログラムの成功に基づき、経口直接トロンピン阻害剤AZD0837の開発プロジェクトを心房細動患者の脳卒中の予防を適応とし第III相段階への移行を決定しました。
- 難治性消化管間質腫瘍（GIST）患者の稀少疾患治療を目的とする熱ショック蛋白90（Hsp90）阻害剤MEDI-561/IPI-504の第III相試験を第3四半期に開始する予定です。本化合物は当社とInfinity Pharmaceuticals社が共同で開発しています。

当社のパイプラインには現在143のプロジェクトがあり、このうち100は臨床開発段階にあります。2008年1月31日の最終更新日以降、20のプロジェクトが次の段階に進み（初めてヒト試験の段階に入った7つの化合物を含む）、15の化合物が創薬研究の段階から新たに臨床開発に加わり、3つの化合物については研究を中止しまし

た。

ポートフォリオで重要なライフサイクルマネジメントプログラムについても、以下のような進捗を果たしました。

- 米国でのセロクエルXRの全般的な不安障害の承認申請を第2四半期に実施しました。EUへの申請も2008年第4四半期の提出に向けて順調に準備が進んでいます。
- *Symbicort*のCOPD（慢性閉塞性肺疾患）および小児喘息の適応症について、米国で効能追加の申請（sNDA）をそれぞれ2008年4月と6月に提出しました。
- 2008年5月に、出血性潰瘍に対する内視鏡的止血術後患者への使用の承認取得を目的に、*Nexium*静注剤の申請を米国FDAに提出しました。続いて6月にスウェーデンを幹事国として、EUに販売承認申請（MAA）提出を行いました。
- プラチナ製剤を含む化学療法治療歴のある局所進行または転移非小細胞肺癌（NSCLC）患者へのイレッサの使用について、2008年5月に欧州医薬品庁にMAAを提出しました。
- 第III相イレッサ汎アジア試験（IPASS）でイレッサは主要目的を上回る成績を示し、静注カルボプラチン/パクリタキセル併用化学療法に対する無増悪生存期間の優越性を証明しました。さらに、イレッサは良好な忍容性プロファイルを示しました。IPASSは非盲検無作為化並行群間比較試験であり、化学療法治療歴がなく、組織学が腺癌であり、喫煙歴がないか、禁煙期間が長期にわたる進行NSCLCで臨床背景因子により選択されたアジア人患者1,217例を組み入れました。この試験のデータは未だ解析中であり、試験結果の詳細は今後の医学会で発表する予定です。

最新の研究開発パイプラインリストは、本プレスリリースと同時に発表しています。リストのコピーは、当社のウェブサイトwww.astrazeneca.comの投資家向け情報のページをご覧ください。

生産性の向上

コストベース再構築のための全社的取り組みに伴う事業再編・相乗効果プログラム費用として、第2四半期にさらに1億3,100万ドルを計上しました。これで両プログラムの開始以降の累積費用は12億1,400万ドルに達しました。

当社は本年末までに、年間14億ドルという全体のコスト削減目標の3分の2を達成する予定であり、2010年までに目標全額を目指します。

今後の見通し

当社は通年の中核1株当たり利益の目標額を0.15ドル上げました。この引上げ額の半分は上半期の事業の営業・財務業績と下半期の見通しを反映しており、残る半分は当初目標値設定の基礎となった予想為替相場（2007年第4四半期の平均為替レート）に比べて、第2四半期に得られた為替差益を反映しています。

2008年下半期のガイダンスは為替に関して当初の予想（2007年第4四半期の平均レート）に基づいており、新しい目標値は1株当たり4.60～4.90ドルです。

この修正目標は、2008年下半期の平均レートが目標値設定の基礎とした2007年第4四半期の為替レートから変化する可能性を考慮していません。主要通貨と米国ドルとの為替変動に対する売上高と利益の感受性に関する当社の見通しは、2007年の通年業績報告とともに提示しており、当社のウェブサイトをご覧ください。

2007年アニュアルレポートForm20 - Fの193～199ページに記載の通り、事業に影響を与える主なリスクや不確定要素は、本質的には本年下半期も変化がないものと思われます。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替ルート（CER）。

消化器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
Nexium	1,323	1,312	-4	2,561	2,620	-7
Losec/Prilosec (オメプラール)	290	298	-13	542	577	-15
合計	1,634	1,630	-6	3,144	3,237	-8

- Nexiumの米国の第2四半期売上高は前年比12%減の7億5,400万ドルでした。主に小売以外の安価な販路の成長により、販売量は全体で11%増、小売部門の調剤量も0.4%増でした。前年に発生した価格引下げの延長により、本年も引き続き第4四半期まで大幅なマイナスの価格変動が予想されます。
- Nexiumの米国の上半期売上高は13%減の14億9,000万ドルでした。
- 米国以外のNexiumの第2四半期売上高は、11%増の5億6,900万ドルでした。新興市場での36%の伸びが大きく寄与しました。
- 米国以外のNexiumの上半期売上高は6%増の10億7,100万ドルでした。
- 世界全体での2008年のNexium売上高は、引き続き一桁台半ばの減少を予想しています。
- 米国でのPrilosecの売上高は第2四半期に15%減、上半期に14%減でした。
- 米国以外のLosecの売上高は第2四半期に12%減、上半期に15%減でした。

循環器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
クレストール	916	678	+27	1,688	1,306	+22
Seloken/Toprol-XL	206	457	-58	396	901	-59
Atacand	388	318	+10	734	614	+9
Plendil	70	74	-14	136	139	-10
ゼストリル	65	76	-24	124	156	-28
合計	1,807	1,755	-5	3,378	3,408	-8

- 米国のクレストールの第2四半期売上高は、前年比18%増の4億1,500万ドルでした。アテローム性動脈硬化症の新適応を受けた販促が功を奏し、クレストールは2008年に米国で市場シェアを拡大した唯一のスタチン製剤となりました。総処方数に占めるクレストールのシェアは6月時点で9.1%であり、2007年12月以来0.5ポイントの上昇を記録しました。処方数は2007年第2四半期と比較すると、8.0%上昇し、市場の伸びの2倍以上拡大しました。
- 米国のクレストールの上半期売上高は、10%増の7億6,800万ドルでした。
- 米国以外のクレストールの第2四半期売上高は、西ヨーロッパ（19%増）、カナダ（30%増）および日本（150%増）の堅調な売上増に支えられ、37%増加し、5億100万ドルを記録しました。
- 米国以外のクレストールの上半期売上高は、35%増の9億2,000万ドルでした。
- 認可後発品の売上高を含むToprol-XL関連製品の米国内売上高は、第2四半期で79%減の7,100万ドルでした。後発品の第2四半期処方数は88%を占めました。
- 米国以外のSelokenの第2四半期売上高は1%増の1億3,500万ドルでした。中国を初めとする新興市場の成長により、西ヨーロッパの不振を補うことができました。
- 米国のAtacandの第2四半期売上高は10%増加しました。米国以外では新興市場の30%の伸びを受け、11%増加しました。

呼吸器および炎症

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
Symbicort	518	414	+12	989	768	+16
パルミコート	383	320	+14	794	721	+6
Rhinocort	92	95	-8	172	187	-12
アコレート	19	19	-5	37	38	-5
Oxis	21	23	-22	38	46	-28
合計	1,078	911	+9	2,118	1,842	+7

- 米国でのSymbicortの第2四半期の売上高は5,700万ドルでした。発売の進捗状況を追跡する主要な指標は、引き続き安定的な改善を示しています。専門医によるSymbicortの試用率は80%に近づき、27%の患者でSymbicortによる併用療法が新たに開始されています。プライマリケア医の製品試用率も34%に増加しており、新たに併用療法を開始する患者の6人にひとりにSymbicortが処方されています。定量合剤の新規処方数に占めるSymbicortのシェアは、6月18日終了週に9.1%でした。配合剤の新規患者市場のシェアは17.6%です。
- 米国以外の市場のSymbicort売上高は4億6,100万ドル（前年同期比6%増）に達し、この増加額の半分以上は新興市場での29%の伸びによります。
- 米国のパルミコートの第2四半期売上高は24%増の2億5,100万ドルでした。パルミコート吸入液の売上高は20%増加し、販売量の増加と販売価格の上昇が売上高の伸びに等しく寄与しました。
- 6月30日にIvax Pharmaceuticals（IVAX）社（現在はTeva Pharmaceutical Industries Ltd.）は、パルミコート吸入液に関する当社の特許への非侵害略式判決（サマリージャッジメント）を申し立てました。当社はこの申し立てに反対する予定です。申し立ての審問は2008年9月23日に予定されています。
- 米国以外のパルミコートの第2四半期売上高は2%減の1億3,200万ドルでした。

オンコロジー

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
アリミデックス	490	430	+6	920	831	+4
カソデックス	358	331	-2	674	641	-4
ゾラデックス	310	275	+1	565	524	-2
イレッサ	67	61	-	125	113	+2
Faslodex	65	53	+11	121	102	+10
ノルバデックス	24	20	+5	42	39	-5
Ethyol *	6	8	n/m	20	8	n/m
合計	1,338	1,195	+2	2,503	2,291	+1

* このMedImmune製品の売上高は、2007年6月1日からアストラゼネカに連結計上しており、それ以前は1カ月の売上高を含む。

- 米国のアリミデックスの売上高は、第2四半期および上半期ともに13%増でした。乳がんのホルモン治療薬市場の成長率は基本的に横ばいですが、アリミデックスの上半期の総処方数は前年比1.1%増を記録しました。
- 米国以外のアリミデックスの売上高は第2四半期に1%増加しましたが、上半期では2%減でした。
- カソデックスの当期売上高は米国で4%増加しましたが、米国以外では4%減でした。
- イレッサの当期売上高は、新興市場のわずかな成長によって日本市場の微減分が相殺され、前年比横ばいとなりました。
- Faslodexの第2四半期売上高は米国以外の19%増により、全体で11%の成長率を記録しました。米国の売上高も4%増加しました。

ニューロサイエンス

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
セロクエル	1,112	963	+11	2,162	1,886	+10
ゾーミッグ	114	106	-1	221	213	-4
合計	1,488	1,293	+9	2,866	2,520	+8

- 米国でのセロクエルの当期売上高は8%増の7億3,300万ドルでした。セロクエルの総処方数は当期6.4%増加し、セロクエルXRは40%の成長率を記録しました。セロクエルは市場をリードする抗精神病薬であり、2008年6月現在、総処方数に占める割合は31.6%に達しました。
- 米国以外のセロクエルの第2四半期売上高は18%増の3億7,900万ドルでした。既成市場の売上高が20%増加しました。
- 2008年第4四半期にセロクエルXRの全般性不安障害についてのEUへの承認申請が終了すれば、本製品のライフサイクルマネジメントに関連する主な申請はすべて完了し、2008年後期から2009年にかけて発売を開始する予定です。
- 第2四半期のゾーミッグの売上高は米国で10%増、米国以外で8%減でした。

感染症・その他

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
Synagis*	81	16	n/m	600	16	n/m
Merrem	226	194	+7	439	372	+9
FluMist*	-	-	n/m	-	-	n/m
合計	365	276	+25	1,152	528	+111

* このMedImmune製品の売上高は、2007年6月1日からアストラゼネカに連結計上しており、それ以前は1カ月の売上高を含む。

- Synagisの売上は季節変動が大きく、当期の売上高は8,100万ドルにとどまり、本年の第2、第3四半期も大幅な売上増は見込めません。

地域別売上

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
北米	3,463	3,542	-3	7,186	7,030	+1
米国	3,126	3,268	-4	6,527	6,502	-
ROWの既成市場*	3,340	2,842	+2	6,313	5,506	+2
ROWの新興市場	1,153	889	+20	2,134	1,703	+16

* ROW (その他) の既成市場には西ヨーロッパ諸国 (フランス、英国、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど)、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれる。

- 米国の第2四半期の売上高は、後発品の競合によるToprol-XLの2億6,800万ドルの売上減が影響し、全体で4%減少しました。Toprol-XLを控除すると、米国市場の売上高は4%増となります。第2四半期の売上高には当期の在庫増加分約1億ドルを含みます。
- その他の既成市場の第2四半期売上高は2%増にとどまりました。西ヨーロッパでは、 Crestol、セロケルおよびSynagisの好調な売上が Losec (オメプラール)、カソデックスおよびパルミコート の売上減を相殺し、全体で1%増加しました。日本では4月に施行された2年に1回の薬価改正前の買い控えが影響し、第2四半期はその反動で売上が10%増加しました。
- 新興市場の売上高は第2四半期に20%増加しました。新興市場の四半期の売上が10億ドルを超えたのは初めてです。売上増に主に寄与したのは、循環器系製品、Nexiumと呼吸器系製品です。中国の売上高は29%増でした。

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

第2四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位である。加重平均株数も100万単位である。

	報告ベース 2008	事業再編 相乗効果 プログラム 費用	MedImmune 社取得に伴う 償却費	Ethyol 評価損	メルク社 関連償却費	中核ベース 2008	中核ベース 2007	前年 同期比 %	CER %
売上高	7,956	-	-	-	-	7,956	7,273	9	2
売上原価	(1,455)	24	-	-	-	(1,431)	(1,469)		
売上総利益	6,501	24	-	-	-	6,525	5,804	13	4
売上高の%	81.7%					82.0%	79.8%	+2.2	+1.7
物流費	(75)	-	-	-	-	(75)	(61)	22	14
売上高の%	0.9%					0.9%	0.8%	-0.1	-0.1
研究開発費	(1,297)	32	-	-	-	(1,265)	(1,196)	6	-
売上高の%	16.3%					15.9%	16.5%	+0.6	+0.3
販売費及び一般管理 費	(2,834)	75	77	-	26	(2,656)	(2,397)	11	5
売上高の%	35.6%					33.4%	33.0%	-0.4	-0.9
その他の営業収入	178	-	30	-	-	208	259	(20)	(19)
売上高の%	2.2%					2.6%	3.6%	-1.0	-0.7
営業利益	2,473	131	107	-	26	2,737	2,409	14	3
売上高の%	31.1%					34.4%	33.1%	+1.3	+0.3
正味利息(支払)/受取	(194)	-	-	-	-	(194)	18		
税引き前利益	2,279	131	107	-	26	2,543	2,427	5	(6)
法人税等	(651)	(37)	(31)	-	-	(719)	(669)		
税引き後利益	1,628	94	76	-	26	1,824	1,758	4	(7)
少数株主持分	(8)	-	-	-	-	(8)	(11)		
当期純利益	1,620	94	76	-	26	1,816	1,747	4	(7)
加重平均株式数	1,456	1,456	1,456	-	1,456	1,456	1,503		
1株当たり利益	1.11	0.06	0.06	-	0.02	1.25	1.17	7	(4)

売上高は報告ベースで9%増、恒常為替レート（CER）ベースで2%増でした。為替変動により売上高は7%増加しました。

第2四半期中核ベースの売上総利益率は、前年同期比1.7ポイント増の82.0%でした。これには、主にメルク社への支払いの減少（1.3ポイント）および継続的な業務効率化と有利な製品構成（0.7ポイント）がプラス要因となりましたが、ライセンス料の増加（0.3ポイント）により一部相殺されました。

第2四半期中核ベースの研究開発費は、研究開発生産性向上の取り組みの順調な進展、事業再編による利益およびポートフォリオの変更により、前年並みの12億6,500万ドルとなりました。

第2四半期中核ベースの販売費及び一般管理費は、MedImmune社の費用の計上や、新興市場への投資の拡大ならびに訴訟関連費用の負担増により、前年同期比5%増の26億5,600万ドルでした。

中核ベースのその他の収入は2億800万ドルで、2007年第2四半期よりも5,100万ドル減少しました。スカンジナビア諸国での非主要製品の売却利益計8,100万ドルを当期に計上しましたが、この額は、2007年第2四半期の非主力感染症製剤の売却利益を5,800万ドル下回りました。さらに、MedImmune社の他の収入の当四半期計上額が、他の一時所得およびライセンス料収入の減少額とほぼ一致しました。

中核ベースの営業利益は27億3,700万ドルで、CERベースで3%増、報告ベースで14%増でした。為替変動により、営業利益は11%増加しました。前年と比較して、ドルはユーロに対して14%弱く（売上高と費用が増加）、スウェーデンクローネに対しても13%弱く（費用が増加）りましたが、英ポンドに対しては1%強くなりました（費用がわずかに減少）。CERベースでの中核営業利益率は0.3ポイント上昇して、売上高の34.4%となりました。売上総利益率の改善ならびに研究開発の効率化がプラスに作用しましたが、販売費及び一般管理費の増加とその他の収入の減少によって相殺される形になりました。

第2四半期中核1株当たり利益は1.25ドルであり、CERベースで4%減少しました。これは、中核営業利益の増加と、発行済株式数の減少による利益を、正味支払利息の増加が上回ったためです。報告ベースでの中核1株当たり利益は7%増加しました。

当四半期に発生した事業再編・相乗効果プログラム費用は前年同期よりも2億4,500万ドル減少しましたが、当期の3カ月間のMedImmune社関連償却費が前年同期の1カ月の費用よりも7,200万ドル増加したため、報告ベースの営業利益は12%増の24億7,300万ドルでした。報告ベースの1株当たり利益は1.11ドルでした。

上半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位である。加重平均株数も100万単位である。

	報告ベース 2008	事業再編・ 相乗効果 プログラム 費用	MedImmune 社取得に伴う 償却費	Ethyol 評価損	メルク社 関連償却費	中核ベース 2008	中核ベース 2007	前年 同期比 %	CER %
売上高	15,633	-	-	-	-	15,633	14,239	10	3
売上原価	(2,957)	56	-	-	-	(2,901)	(2,873)		
売上総利益	12,676	56	-	-	-	12,732	11,366	12	5
売上高の%	81.1%					81.5%	79.8%	+1.7	+1.2
物流費	(141)	-	-	-	-	(141)	(122)	15	8
売上高の%	0.9%					0.9%	0.9%	-	-
研究開発費	(2,533)	86	-	-	-	(2,447)	(2,366)	3	(1)
売上高の%	16.2%					15.7%	16.6%	+0.9	+0.7
販売費及び一般管理 費	(5,571)	106	156	257	51	(5,001)	(4,592)	9	3
売上高の%	35.6%					32.0%	32.2%	+0.2	-0.1
その他の営業収入	299	-	60	-	-	359	397	(10)	(10)
売上高の%	1.9%					2.3%	2.8%	-0.5	-0.4
営業利益	4,730	248	216	257	51	5,502	4,683	17	7
売上高の%	30.3%					35.2%	32.9%	+2.3	+1.4
正味利息(支払)/受取	(308)	-	-	-	-	(308)	115		
税引き前利益	4,422	248	216	257	51	5,194	4,798	8	(2)
法人税等	(1,289)	(72)	(63)	(77)	-	(1,501)	(1,397)		
税引き後利益	3,133	176	153	180	51	3,693	3,401	9	(1)
少数株主持分	(10)	-	-	-	-	(10)	(15)		
当期純利益	3,123	176	153	180	51	3,683	3,386	9	(1)
加重平均株式数	1,456	1,456	1,456	1,456	1,456	1,456	1,515		
1株当たり利益	2.14	0.12	0.11	0.12	0.04	2.53	2.24	13	3

売上高は報告ベースで10%増、恒常為替レート（CER）ベースで3%増でした。為替変動により売上高は7%増加しました。

上半期中核ベースの売上総利益率は、前年同期比1.2ポイント増の81.5%でした。これには、主にメルク社への支払いの減少（1.3ポイント）および継続的な業績効率化と有利な製品構成（0.8ポイント）がプラス要因となりましたが、ライセンス料の増加（0.9ポイント）により一部相殺されました。

上半期中核ベースの研究開発費は24億4700万ドルで前年比1%減でした。前年同期にAtheroGenics社およびAvanir社との共同事業に伴う無形資産償却を計上しました。これらの償却費を控除すると、中核ベースの研究開発費は上半期に2%増となり、MedImmune社連結による費用増は生産性向上と効率化、事業再編による経費減およびポートフォリオの変更により、ほぼ相殺されました。

上半期中核ベースの販売費及び一般管理費50億100万ドルは、前年同期比3%増であり、これはMedImmune社連結による費用増や、新興市場への投資の拡大によります。

中核ベースのその他の収入は3億5,900万ドルで、前年同期より3,800万ドル低く、これは一時所得およびライセンス料収入の減額分がMedImmune社のライセンス料・ロイヤリティ収入を上回った結果です。。

中核ベースの営業利益は55億200万ドルであり、CERベースで7%増、報告ベースで17%増でした。為替変動により、営業利益は10%増加しました。CERベースでの中核営業利益率は1.4ポイント上昇して、売上高の35.2%となりました。売上総利益率の改善ならびに研究開発の効率化がその他の営業収入の減少と販売・一般管理費の増加によって一部相殺されました。

上半期中核1株当たり利益は2.53ドルであり、CERベースで3%増加しました。これは、中核ベースの営業利益の増加と、発行済株式数の減少による利益が、正味支払利息の増加によって一部相殺された結果です。報告ベースでの中核1株当たり利益は13%増加しました。

報告ベースの営業利益47億3,000万ドルで前年比3%増、中核ベースでは7%増でした。第1四半期に発生した*Ethyol*の無形資産評価減のほかに、本年上半期はMedImmune社関連償却費を6カ月分計上しましたが（前年上半期は1カ月分のみ）、これは2008年上半期の事業再編・相乗効果プログラム費用の減少によって、一部しか相殺されませんでした。

上半期の報告ベースの1株当たり利益は2.14ドルであり、CERベースで3%減少しました。為替差益を含むと、報告ベースの1株当たり利益は9%増加しました。

受取利息と支払利息

2007年上半期は受取利息が1億1,500万ドル（2007年第2四半期1,800万ドル）であったのに対して、本年上半期の正味支払利息は3億800万ドル（第2四半期1億9,400万ドル）でした。これは主に、MedImmune社の買収に伴う追加借入れによる支払利息と平均現金保有量の減少による受取利息の減少が原因です。

税金

実効税率は第2四半期28.6%（前年同期27.8%）、上半期29.1%（前年同期29.5%）です。通年の税率は、2007年と同程度の約29.5%と予想されます。

キャッシュフロー

営業活動による現金収入は、前年同期の31億8,400万ドルに対して、2008年上半期は42億9,200万ドルでした。この11億800万ドルの増加は、主に償却費・評価損計上前の営業利益の増加額10億1,100万ドルによるものですが、これに加えて、支払税の減少額3億6,700万ドルから支払利息の増加額2億6,300万ドルを減じた額が該当します。

投資活動による正味現金支出は、前年同期の144億9,300万ドルに対して、2008年上半期は31億9,900万ドルでした。2007年のMedImmune社の買収金額143億9,100万ドルを除く現金支出の増加額30億9,700万ドルの内訳は、主に部分償還の一部としてのメルク社への支払26億3,000万ドル、短期投資および定期預金の減少による現金収入の減少5億7,000万ドルならびに受取利息の減少1億3,000万ドルです。株主への現金還元額は、2007年の20億700万ドルから2回目の中間配当の支払により21億8,000万ドルになり、正味株式買い戻し額は1億7,300万ドルでした。

投資

注5（英文リリース27ページ）に記載の通り、3月17日に当社はメルク社との契約条項に基づき約26億ドルの支払いを行いました。これらは、今後発生しうる支払い額の軽減ならびに特定の治療分野での資源と製品を全面的に活用する能力によって得られる利益を反映するため、無形資産として計上しました。これ以外に、当上半期に発生した重要な投資はありません。

負債と資本の構造

2008年6月30日現在、有利子負債総額（ローン、短期借入金および当座借越を含む）は148億7,300万ドル（12月31日現在151億5,600万ドル）であり、このうち 110億3,200万ドルは返済期限が1年超の負債です（12月31日現在108億7,600万ドル）。正味有利子負債額は、主に前述の現金支出により、12月31日から12億4,700万ドル増加し、103億5,900万ドルになりました。

さらに7月には、借り換えプログラムの一環として、5億ユーロの債券を発行し、この収益を満期のコマーシャルペーパーの借り換えに充てる予定です。債券の期限は18カ月であり、2010年1月4日に満期を迎え、利息は5.625%です。これはEuro Medium Term Note Programmeの下で発行しました。

配当と株主の還元

取締役会の配当方針は変わらず、報告ベース利益（事業再編・相乗効果プログラム費用控除前）に準じた配当金の上げを目指しています。この方針に沿って、当社取締役会は2008年の第1回中間配当金を普通株式1株当たり0.55ドル（27.8ペンス、3.34スウェーデンクローネ）を支払うよう勧告しました。

第2四半期に総額2億800万ドルを投じて、500万株を買い戻し、償却しました。第1四半期には株の買い戻しはありませんでした。株式オプション行使を考慮するとともに、従業員持株計画に関連して、上半期の6カ月間に総額3,500万ドルで90万株を発行しました。

2008年6月30日現在の発行済株式総数は14億5,300万株です。

取締役会の配当方針および全体的な財務戦略は、強固な投資格付けの信用評価を維持しながら、当社の事業、株主、債権者3者の利益のバランスを保つことです。取締役会は、事業の必要性に応じて、2008年には10億ドル程度の株の買い戻しを予想しています。

利害関係者間の取引

当期に利害関係者間の重要な取引はありませんでした。

カレンダー

2008年10月30日	2008年第3四半期・9カ月累計業績発表
2009年1月29日	2008年第4四半期・通年業績発表

最高経営責任者
デビッド・ブレナン